

Model 09

公正取引委員会
経済取引局取引部取引企画課
消費税転嫁対策調査官主査



あいざわ ひろえ
相澤 央枝
Hiroe Aizawa

Profile

- 平成18年・公正取引委員会事務局入局（経験者採用）
審査局第一審査審査専門官
独占禁止法に係る審査業務等
- 平成22年・経済取引局取引部企業取引課下請取引調査
室下請取引検査官
下請法に係る相談、申告対応業務
- 平成23年・経済取引局取引部企業取引課下請取引調査
室下請取引検査官主査
下請法に係る調査業務等
- ・中部事務所下請課長
下請法に係る調査業務等
- 平成25年・経済取引局取引部企業取引課下請取引調査
室下請取引検査官主査
下請法に係る調査業務等
- ・～出産
産前・産後休暇、育児休業（1年）
- 平成28年・経済取引局取引部取引企画課消費税転嫁
対策調査官主査
～現在
消費税転嫁対策特別措置法に係る調査業務等

時には肩の力を

一途な一生懸命から自然体へ

公正取引委員会の中途採用への応募は、民間企業での勤務において、委員会の仕事を知ったことからでした。入局の辞令交付の際の嬉しくも身の引き締まる思いは、昨日のここのようです。

最初に配属された審査局は、独占禁止法に係る審査業務を行う部署です。男社会の慣れない業務で不安な中、女性の先輩・同僚から声を掛けていただきホッと、その御活躍に勇気をもらいました。また、この時期の上司や先輩からの厳しくも暖かい御指導が、その後の公務員人生の基礎になっていると感謝しております。その後は、産休まで、下請法に係る業務に携わりました。

振り返ってみると、辞令を頂く度に、自分に勤まるかと不安でしたが、大丈夫と判断されて配属されたのだと言い聞かせ、ひたすら一生懸命やってきたように思います。当初、生活は仕事一色で、その裏返し、深く落ち込んだりすることもよくありました。ようやく気分転換の大切さに気が付き、趣味でダンスを始めてからは、生活にもメリハリができました。一旦仕事を離れることで新たな視点で見ることができ、次第に周りを見る余裕もできてきたように思います。

生活のペースが出来上がった中で子供を授かった時は、不安だらけでした。そんな時、同僚の「おしめの取替えぐらいならお手伝いしますよ。」という言葉で、ふっと気持ちになり、もっと周りを頼っていいのだ、もっと肩の力を抜いて、自然体でいいのだと思えるようになりました。

また、体に無理が利かなくなったこともあり、自分の仕事は何かや、仕事と生活のバランスを考えるようになったのもこの頃のように思います。

抜いて、自然体で

仕事と育児の両立

復帰後の所属は、御配慮から古巣となりました。そのため、何となく楽観していたのですが、育児と仕事の両立は思いのほか大変でした。仕事面では、これまで以上に業務の優先順位を考え、一層効率化を図るようにしていたのですが、生活面は、全てが未知の世界で、夜中に起きて家事をしたりしてどうにかやりくりをしていました。

そんな時、同僚の何気ない「全部独りでやっているの？」という一言で、ようやく、抱え込んで疲れていたように感じていたことに気が付きました。その日、夫に保育園への送りをお願いしたところ、肩の荷が下りたようでホッと、生活面でも抱え込まないことが大切と大いに反省しました。もちろん最初は、相手もお手伝い気分なこともあり、頼んだことはしてもらえず、しないでとお願いしたことだけしてくれるというコメディ状態でしたが、今では何とか役割分担もできてきたように思います。

最近では、子供が成長して楽になった反面、自己主張が出てきて、今までとは違った大変さも出てきました。これからもいろいろとあると思いますが、周囲に感謝しながら、肩の力を抜いて、自然体でその時々柔軟に対応していけたらと思っています。

最後に

振り返ってみて、改めていつも上司、先輩、同僚に支えられ、その暖かい御指導、御助言により、少しずつ成長し、やってこれていることに、感謝するばかりです。

また、身近な方から他省庁の方まで、女性職員の皆さんの御活躍を目にしながら、いつも元気や勇気をいただいております。私自身は、まだまだ発展途上ですが、少しでもお役に立てるよう、皆様と一緒にこれからも頑張っていきたいと思います。



一日の タイムスケジュール例

- 5:00 起床、朝食作り、洗濯、ゴミ出し等
- 8:30 登庁
- 10:35 室内打合せ
- 11:30 班内打合せ
- 12:00 昼食
- 13:00 他課との打合せ
- 13:30 担当との事案打合せ
- 17:15 退庁
- 18:10 保育園のお迎え、夕食等
- 21:00 就寝（子供と）

女性職員のメッセージ

仕事を続けていく上では、女性特有の「壁」がいくつもあると思います。そんな時は、どうしても一生懸命になりがちですが、周囲の支援に感謝しつつ、肩の力を抜いて、自然体で自分らしく乗り越えていきたいですね。